

## 高知県から得られた四国初記録のベラ科魚類ズナガアカボウ

橘 皆希<sup>1</sup>・遠藤広光<sup>1</sup>

### Author & Article Info

<sup>1</sup> 高知大学工学部海洋生物学研究室（高知市）  
MT: miibai.harima@gmail.com (corresponding author)  
HE: endoh@kochi-u.ac.jp

Received 01 April 2026  
Revised 07 April 2026  
Accepted 07 April 2026  
Published 08 April 2026  
DOI 10.34583/ichthy.66.0\_13

Minaki Tachibana and Hiromitsu Endo. 2026. First record of the Ear-ring Hogfish, *Bodianus tanyokidus* (Labridae), from Kochi Prefecture, Shikoku, Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 66: 13–17.

### Abstract

In April 2025, a specimen (standard length 147.1 mm) of a wrasse belonging to the genus *Bodianus* Bloch, 1790, characterized by a red head and vivid orange body, was captured by angling off the south coast of Cape Muroto, Kochi Prefecture, Shikoku, Japan, at a depth of 110–130 m. The specimen was identified as the Ear-ring Hogfish, *Bodianus tanyokidus* Gomon and Madden, 1981, based on the following combination of characters: pored lateral-line scales 37+2; vomerine teeth absent; anterior dorsal-fin scale area posterior to postorbital margin; a distinct black blotch on posterior operculum, extending below upper margin of pectoral-fin base. In Japanese waters, this species, widely known from the Indo-West Pacific Ocean, has been recorded off Kuchino-shima island (Tokara Islands, Kagoshima Prefecture) and Okinawa Prefecture based on specimens, and from Sagami Bay and the Shotoku Seamount (Nishi-Shichito Ridge) based on photographs. Accordingly, the present specimen represents the first record of *B. tanyokidus* from Shikoku.

ベラ科タキベラ属魚類 *Bodianus* Bloch, 1790 は、背鰭が通常 12 棘 10 軟条で基底が長く高さが一定、臀鰭が通常 3 棘 12 軟条、側線が完全な 1 本で途切れず緩やかに湾曲する、側線有孔鱗数（鰓蓋上端から尾柄部後端 + 尾鰭上）が 29–48+2、背鰭と臀鰭に 0.5–4 枚の鱗鞘をもつ、両顎の前端に 2 対と上顎の後端に 1 本（稀に 2–3 本）の犬歯状歯をもつ、および両顎側方の歯は歯列隆起（dental ridge）の上に配列するなどの特徴を有する（Gomon, 1997, 2006; 島田, 2013; Randall and Victor, 2022）。本属魚類は三大洋の熱帯

から温帯域に広く分布し、世界で 45 種、日本からは 17 種が知られる（Gomon, 1997, 2006; Randall and Victor, 2022; 本村, 2026）。本属に含まれるズナガアカボウ *Bodianus tanyokidus* Gomon and Madden, 1981 は、インド・西太平洋域で散発的に確認され、日本国内ではこれまでに西七島海嶺、鹿児島県トカラ列島、および沖縄県の水深 100 m 以深から記録がある（Gomon and Madden, 1981; Gomon, 2006; 島田, 2013; 畑ほか, 2015; Koeda et al., 2021; 佐藤ほか, 2023）。また、神奈川県立生命の星・地球博物館の写真データベースには、相模湾で撮影された本種の水の中写真が登録されている。

2023 年から継続されている高知県室戸市近海に生息する魚類の調査において、2025 年 4 月に室戸岬南方沖の水深 110–130 m からズナガアカボウに同定されるタキベラ属魚類 3 個体が釣獲され、そのうちの 1 個体を標本とした。本種の日本国内の記録は上記のとおりであるため、本標本は本種の四国沿岸からの初記録となる。

### 材料と方法

計数・計測方法はおもに Gomon (1997, 2006) に、尾鰭上縁長（uppermost caudal-fin length）と尾鰭中央長（medial caudal-fin length）の計測は津野ほか（2024）に、それぞれしたがった。標準体長は体長または SL（standard length）、全長は TL（total length）と表記した。調査標本は両体側の胸鰭鰭条が奇形のため、分枝様式を区別せず、胸鰭総軟条数を示した。各鱗の計数は、サイアニンプルーで染色し、双眼実体顕微鏡を用いた。鰓耙は右体側の第 1 鰓弓の下枝下端を切断して計数した。計測はディバイダーあるいはデジタルノギスを用いて 0.01 mm 単位までおこない、小数第 2 位を四捨五入した。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は、本村（2009）にしたがった。調査標本は高知大学工学部海洋生物学研究室（BSKU）に保管されている。KAUM は鹿児島大学総合研究博物館、KPM は神奈川県立生命の星・地球博物館の研究機関略号である。なお、KPM の登録写真（KPM-NR）は、電子台帳上に記された

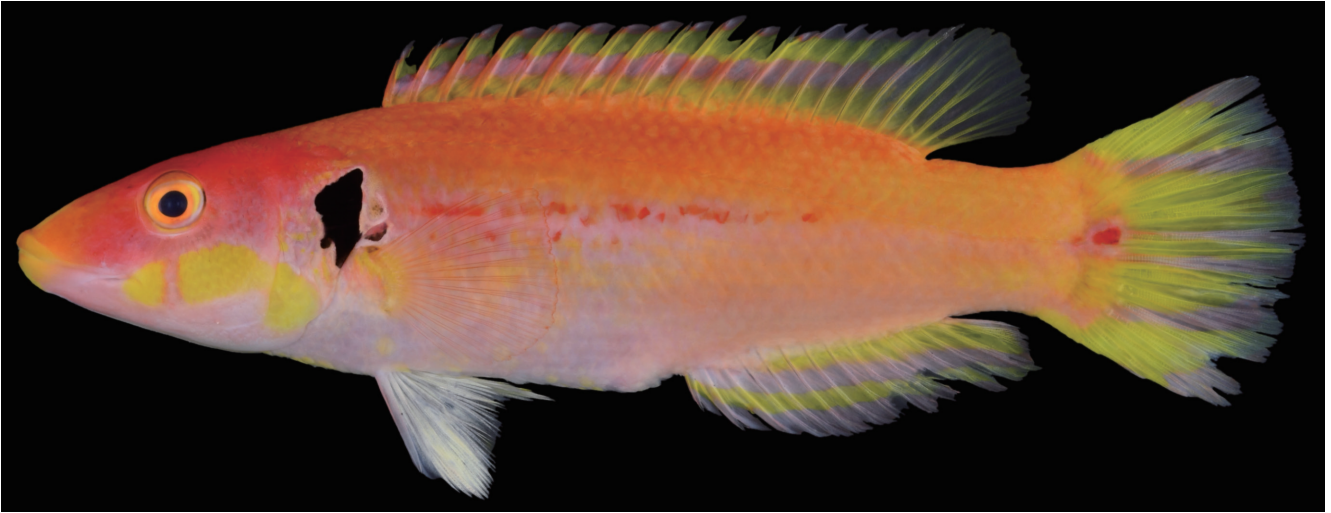


Fig. 1. Fresh specimen of *Bodianus tanyokidus* (BSKU 138517, 147.1 mm SL) collected off the south coast of Cape Muroto, Kochi Prefecture, Japan.

数字7桁のうち、付加されたゼロを除いた有効数字のみで示した。

***Bodianus tanyokidus* Gomon and Madden, 1981**

**ズナガアカボウ**

(Figs. 1, 2A; Table 1)

**標本** BSKU 138517, 体長 147.1 mm, 高知県室戸岬南方沖 (33°06'47.8"N, 134°09'35.8"E), 水深 110–130 m, 釣り, 海来 (漁船), 2025 年 4 月 30 日, 橘 皆希ほか.

**記載** 計数形質と体各部の体長に対する割合を Table 1 に示した. 体は側扁してやや細長く, 体高は背鰭第 7 棘基部で最大. 体の背縁は吻端から背鰭起部まで上昇した後, 背鰭第 8–9 棘基部付近まで緩やかに上昇し, そこから尾柄部まで緩やかに下降する. 体の腹縁は下顎前端から肛門のやや前方にかけて下降し, そこから尾柄部まで上昇する. 尾柄は太短く, 尾柄長は尾柄高とほぼ同長で, 背腹縁はわずかに窪む. 吻は細く, 前端はやや尖る. 口は端位で, 口角は眼窩前縁のほぼ直下. 両唇は厚く, 上唇の背面は盛り上がる. 上顎前端は下顎前端よりわずかに突出する. 両顎前端には後方に湾曲する大きな犬歯状歯がそれぞれ 2 対あり, 上顎ではいずれもほぼ同大で, 下顎では内側 2 本が外側 2 本より小さい. 両顎前端の外側に位置する犬歯状歯の直後から顎の側方に歯列隆起があり, その表面の凹凸は不規則. 歯列隆起の上の後方には数本の円錐状歯がある. 上顎後端にはやや前方に傾く 1 犬歯状歯がある (右体側のみ). 鋤骨歯を欠く. 鼻孔は 2 対で互いに接近し, 眼窩前方の吻上部に位置する. 鼻孔はそれぞれ円形で, 前鼻孔には鼻管がある. 眼窩は円形で, 吻端を通る水平線よりやや上方に位置する. 両眼間隔域は平坦. 各鰓蓋骨の後縁および下縁縁部は円滑. 主鰓蓋骨の上部は後方に広がる. 体は一様に円鱗で被われ, 吻部, 両顎, 眼の周辺, 両眼間隔域,

各鰓蓋骨の縁部部の大部分, および胸鰭腋部は無鱗. 背鰭前方鱗の前端は眼窩後縁よりも後方に位置する. 背鰭基底および臀鰭基底に 2 枚, 尾鰭基底に 3 枚の鱗鞘をもつ. 側線は完全な 1 本で, 鰓蓋の上方から背鰭第 4 棘基部の直下付近にかけてわずかに上昇し, そこから尾柄中央部まで緩やかに下降した後, 尾柄中央部から尾柄部後端を越えて尾鰭基部まで体軸と平行に走る. 肛門は臀鰭起部の前方に位置し, 背鰭第 9–10 棘基部のほぼ直下. 背鰭は基底が長く, 高さが一定. 背鰭起部は鰓蓋後端の, 基底後端は臀鰭第 10–11 軟条基部の, それぞれほぼ直上. 胸鰭は扇形で, 基底上端が主鰓蓋骨後端の直下. 腹鰭起部は胸鰭基底上端よりわずかに後方に位置し, 第 5 軟条と体が膜で接続する (ただし, 両体側ともに膜の一部が損傷). たたんだ腹鰭の後端は背鰭第 7 棘基部のほぼ直下. 臀鰭起部は背鰭第 10–11 棘間の基部のほぼ直下. 尾鰭は二重截形.

**色彩** 生時・生鮮時 (Figs. 1, 2A) 一体の地色は橙色から山吹色で, 体腹部に向かい桜色になる. 頭部背縁は鮮やかな赤色で吻中央部から前方は橙色. 下顎の先端部を除く頭部の腹面は桜色. 口の前部付近は山吹色. 口角の後方および頬部から鰓蓋部に連なる不定形の鮮やかな黄色斑がある. 瞳孔は黒色, 虹彩は山吹色でその後部は黄色. 眼の後縁の一部は黒色. 鰓蓋後部に背側方向に伸びた明瞭な 1 黒色斑があり, その下端は胸鰭基底上端より下方に位置する. 黒色斑の前方には不定形の淡い黄色斑が散在し, 後方には不定形の赤褐色からくすんだ赤紫色の斑がある. 体側の中央に鰓蓋後端から背鰭第 3–4 軟条基部直下にかけて不連続に走る 1 赤色縦帯があり, 縦帯の中央付近の直下までに少数の赤色から朱色の斑が 1 列に並ぶ. 体側前半部では不定形の淡い黄色から淡い山吹色の点や斑点が散在し, 後半部では山吹色の縦帯がある. 尾柄部はおおむね山吹色. 背鰭の地色は黄色で, 第 1 棘から第 5 軟条にかけての中央に桃色の縦帯が走る. 臀鰭の地色は黄色で, 中央および外縁に

淡い紫色の縦帯が走る。臀鰭最終軟条の後枝付近も同様に淡い紫色を呈する。尾鰭の地色は黄色。尾鰭基底の中央に淡い桃色で囲まれた1赤色斑がある。尾鰭に4本の淡い紫色の縦帯があり、中央の2縦帯は外側の2縦帯よりやや細い。尾鰭両葉の後端付近も同様に淡い紫色を呈する。胸鰭の鰭膜は半透明で、胸鰭外縁や各鰭条の輪郭は橙色を帯び、基底は黄色。腹鰭は白色で、腹鰭棘は中央部付近まで桜色みを帯びる。

固定後一体は黄色みを帯びた白色で、背鰭、臀鰭、および尾鰭の基底部は淡褐色。各鰭の鰭膜は白色半透明。眼の後縁にある黒色と鰓蓋後部の黒色斑は顕著に残る。鰓蓋後部の黒色斑の後方にある不定形の赤褐色からくすんだ赤紫色の斑はやや退色するものの、残存する。

**分布** 本種は南日本、台湾台東、マリアナ諸島、コモロ諸島、モーリシャスから知られ、日本国内では標本に基

づく記録が高知県、鹿児島県トカラ列島口之島、および沖縄県のいずれも水深100 m以深から、水中写真による記録が西七島海嶺正徳海山の水深271 mからある(具志堅, 1972; 益田ほか, 1975; Gomon and Madden, 1981; 山川, 1984; Gomon, 2006; 島田, 2013; 畑ほか, 2015; Motomura, 2020; Koeda et al., 2021; Randall and Victor, 2022; 佐藤ほか, 2023; 本研究)。その他、2024年の4月から5月にかけて相模湾から既知の垂直分布よりも浅い水深35–65 mの地点で、本種が撮影された [KPM-NR 249283, KPM-NR 253195 (Fig. 3), KPM-NR 253196]。

**備考** 本標本は背鰭が12棘10軟条で基底が長く、高さが一定、臀鰭が3棘12軟条、側線が完全な1本で途切れない、背鰭と臀鰭に2枚の鱗鞘をもつ、両顎の前端に2対および上顎の後端に1本の犬歯状歯をもつ、および両顎の側方の歯が歯列隆起上に配列するなど、タキベ

Table 1. Counts and morphometric measurements of *Bodianus tanyokidus*.

	This study	Gomon (2006)	Hata et al. (2015)
	BSKU 138517 Kochi Prefecture	Type series (5 specimens) Indo-West Pacific Ocean	KAUM-I. 78687 Tokara Islands
Standard length (SL, mm)	147.1	131–177	145.3
Counts			
Dorsal-fin rays	XII, 10	XII, 10	XII, 10
Anal-fin rays	III, 12	III, 12	III, 11
Pectoral-fin rays	17*	ii, 15	17
Lateral-line scales	37 + 2	36–41 + 2	36
Scale rows above lateral line	4	4–4.5	4
Scale rows below lateral line	14	13–14	14
Pre-dorsal-fin scale rows	12	11–12	11
Gill rakers	4 + 11 = 15	12–17	3 + 11 = 14
Measurements (% SL)			
Body depth	26.6	23.0–24.6	26.5
Head length	37.1	35.4–37.4	37.1
Snout length	12.5	11.2–13.5	13.3
Orbital diameter	6.6	6.1–7.0	6.1
Interorbital distance	6.1	5.9–6.9	6.8
Pre-dorsal-fin length	37.5	—	38.3
Pre-anal-fin length	64.3	—	65.3
Pre-anus length	60.6	—	61.8
Caudal-peduncle depth	14.1	13.1–13.9	13.7
Caudal-peduncle length	14.8	—	—
Dorsal-fin length	62.8	—	—
Dorsal-fin base length	51.4	47.5–49.0	51.5
1st dorsal-fin spine length	5.5	5.1–5.9	4.9
2nd dorsal-fin spine length	7.2	6.3–7.2	6.3
12th dorsal-fin spine length	11.8	10.2–11.5	10.4
Posterior lobe of dorsal-fin length	12.6	12.2–13.9	—
Anal-fin length	34.5	—	—
Anal-fin base length	24.8	22.8–24.9	24.5
1st anal-fin spine length	5.1	4.3–6.0	4.3
3rd anal-fin spine length	10.3	9.5–10.7	10.1
Posterior lobe of anal-fin length	9.4	10.0–11.0	—
Pectoral-fin length	18.3	16.4–18.3	17.1
Pelvic-fin length	17.0	16.1–17.5	17.1
Uppermost caudal-fin length	24.0	—	—
Medial caudal-fin length	22.5	19.8–24.7	21.1

\*Due to the presence of deformities, branching patterns were not distinguished.

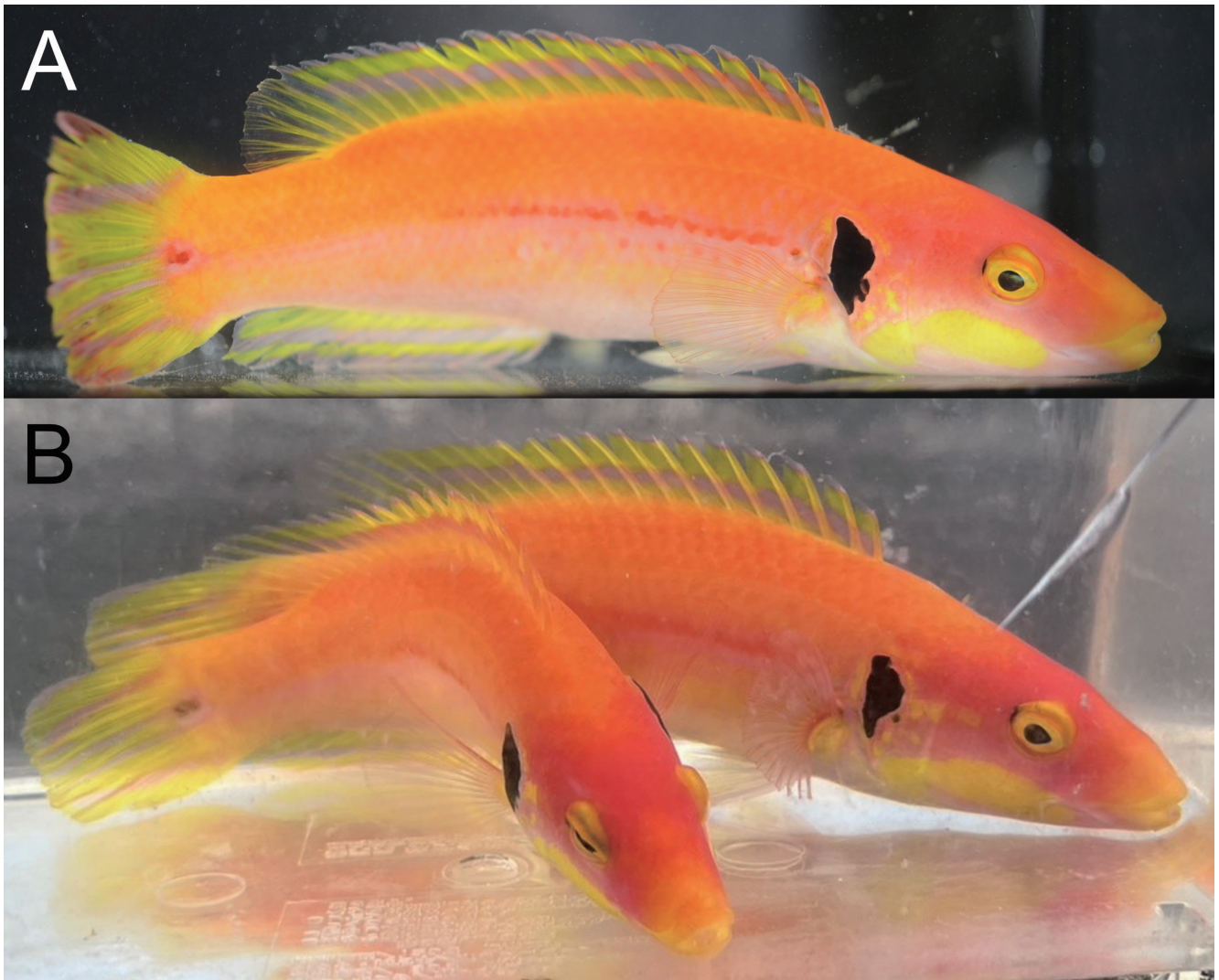


Fig. 2. Living individuals of *Bodianus tanyokidus* from Kochi Prefecture, Japan. A: Specimen (BSKU 138517) examined in this study; B: two live individuals collected with the presently reported specimen.



Fig. 3. Underwater photograph of *Bodianus tanyokidus* (KPM-NR 253195, about 15 cm TL) from the Izu Oceanic Park, western part of Sagami Bay, Shizuoka Prefecture, Japan, at a depth of 65 m. Photo by W. Takase.

ラ属 *Bodianus* の特徴をもつ (Gomon, 1997, 2006; 島田, 2013). また, 本標本は側線有孔鱗数が 37+2 (Table 1), 鋤骨歯を欠く, 背鰭前方鱗の前端は眼窩後縁よりも後方に位置する, 鰓蓋後部に背側方向に長い明瞭な 1 黒色斑をもち, その下端が胸鰭基底上端より下方に位置するなどの特徴が Gomon and Madden (1981), Gomon (2006), 島田 (2013), および畑ほか (2015) の示したズナガアカボウ *B.*

*tanyokidus* の標徴と一致したため, 本種に同定された. 本種の分布記録は上記のとおりであり, 本標本は本種の高知県および四国沿岸からの初記録となる.

本標本は水深 110–130 m 地点から得られ, その海底環境は岩礁域であった. 本種は体サイズが小さく, 多くの個体は水深 100 m 以深に生息するため採集方法が限られることから, これまで標本に基づく記録は少ない (Gomon and Madden, 1981; 島田, 2013; 畑ほか, 2015; Randall and Victor, 2022). また, 本標本が釣獲された際, ほぼ同時に本標本とは異なる本種の 2 個体が得られた (Fig. 2B). そのため, 複数個体が群れで生息する可能性がある. しかし, 本種の形態形質の変異幅や生態的な知見は依然として乏しいことから, 継続的な調査や標本の蓄積が必要である.

#### 謝 辞

「海来」船長の松尾拓哉氏 (高知県漁業協同組合 佐喜浜町支所), 高知県立足摺海洋館 SATOUMI の田中貴晴氏, 高知大学大学院総合人間自然科学研究科の中垣内颯大氏には, 室戸市近海の採集調査にご協力いただいた. 小川峻輔

氏、熊木慧弥氏、松永 翼氏、津野義大氏をはじめとした高知大学工学部海洋生物学研究室の学生諸氏には、採集調査や標本作製、写真の撮影、画像加工等の研究活動にご協力いただいた。鹿児島大学総合研究博物館の本村浩之博士には、文献をご提供いただいた。査読者の和田英敏博士には、本稿に対し有益なご指摘を賜るとともに、KPMの写真の使用許諾をいただいた。Ichthy 編集委員の松本達也博士には、本稿の改訂に際し、有益なご助言やご指摘を賜った。以上の方々に厚く御礼申し上げる。本研究の一部は、室戸ユネスコ世界ジオパークの「2025年度室戸ジオパーク学術研究助成」の援助を受けた。

## 引用文献

- Gomon, M. F. 1997. Relationships of fishes of the labrid tribe Hypsigynini. *Bulletin of Marine Science*, 60: 789–871.
- Gomon, M. F. 2006. A revision of the labrid fish genus *Bodianus* with descriptions of eight new species. *Records of the Australian Museum, Supplement*, 30: 1–133.
- Gomon, M. F. and W. D. Madden. 1981. Comments on the labrid fish subgenus *Bodianus* (*Trochocopus*) with a description of a new species from the Indian and Pacific oceans. *Revue française d'Aquariologie Herpétologie*, 7: 121–126.
- 具志堅宗弘. 1972. 原色沖縄の魚. 琉球水産協会事務局, 那覇. 251 pp.
- 畑 晴陵・高山真由美・本村浩之. 2015. 鹿児島県トカラ列島から得られたベラ科魚類ズナガアカボウ *Bodianus tanyokidus* の記録. *日本生物地理学会会報*, 70: 193–196.
- Koeda, K., S. Takashima, T. Yamakita, S. Tsuchida and Y. Fujiwara. 2021. Deep-sea fish fauna on the seamounts of southern Japan with taxonomic notes on the observed species. *Journal of Marine Science and Engineering*, 9: 1–20.
- 益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫. 1975. 魚類図鑑 南日本の沿岸魚. 東海大学出版会, 東京. 379 pp.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- Motomura, H. 2020. Review of the ichthyofaunal studies in the Tokara Islands, southern Japan, pp. 153–163. In Otsuka, Y., R. Terada and S. Nishimura (eds.) *The Tokara Islands: Culture, society, industry and nature*. Hokuto Shobou, Kyoto.
- 本村浩之. 2026. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 38. [URL](#) (1 Apr. 2026)
- Randall, J. E. and B. C. Victor. 2022. Family Labridae, wrasses, pp. 166–265, pls. 55–102. In Heemstra, P. C., E. Heemstra, D. A. Ebert, W. Holleman and J. E. Randall (eds.) *Coastal fishes of the western Indian Ocean*. Vol. 4. South African Institute for Aquatic Biodiversity, Makhanda.
- 佐藤圭一・金子篤史・高岡博子・東地拓生・宮本 圭・比嘉俊輝・中島遥香. 2023. 美ら海トワイライトゾーン 知られざる深海生物のワンダーランド. 産業編集センター, 東京. 271 pp.
- 島田和彦. 2013. ベラ科, pp. 1088–1136, 2045–2056. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 津野義大・熊木慧弥・饗場空瑠・遠藤広光. 2024. 室戸岬沖から得られた高知県初記録のアカホシキツネベラ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 44: 26–30.
- 山川 武. 1984. ズナガアカボウ, p. 197, pl. 196A. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編) 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.